

教育民生常任委員会に付託を受けた議案および予算常任委員会教育民生分科会に分担された議案について審査した結果、主に下記内容が議論されました。

- ◆委員長／永崎 陽
- ◆副委員長／伊藤 厚子
- ◆委員／山添和良 大林吉正 石川邦彦
中西庸介 木下孝輝

博物館建設予定地に隣接する広場（能登歴史公園）

主な審議内容

【議案第50号】

平成29年度七尾市病院事業会計補正予算(第1号)

◆手術用ロボット「ダヴィンチ」について

- ㊦ これを導入することで地域医療に対するメリットは何か。
- ㊧ この「ダヴィンチ」は、例えば前立腺がんの手術などに保険適用されている手術用ロボットで、鉗子や指が届きにくい体の深い所へ、人間ではできない動きができる。このロボット導入により、精度の高い、出血の少ない手術ができることは、地域住民にとって心強いことと思っている。

【議案第59号】

工事請負契約の締結について

◆(仮称)七尾博物館建設工事(建築)について

- ㊦ 建設場所は地盤の弱いところだが、大丈夫なのか。
- ㊧ 十分な地質調査を行っており、調査結果を基に十分な支持力を持つ杭を打つ設計となっていることから、建物が傾いたりする心配はない。

【その他】

◆「避難行動者要支援者台帳」について

- ㊦ 「避難行動者要支援者台帳」について、町会長がこの台帳の取り扱いについて分からないという意見がある。行政として町会長などに説明する必要があると思うがどうか。
- ㊧ 台帳の作成は福祉課で行っており、活用方法が分からないということであれば地域に出向いて説明をしていく。
- ㊦ 台帳の更新をしていると思うが、町会に対しその更新された情報がどのように伝わっていくのか。
- ㊧ 更新した名簿と、支援が必要な世帯を色づけしたマップを1年に1回更新している。年度当初に赤十字の説明会があり、出席する地区民生委員の会長、地区社会福祉協議会の会長に対して説明し、そのとき渡している。町会長には郵送している。
- ㊦ 町会長が交代すれば台帳も引き継がれていくが、その取扱いに戸惑っているようである。台帳は、どのように活用されるのか。
- ㊧ マップの役割について、使用を有事の際に限っていたものを、災害基本法の改正により、平時でも使用できるようになり、日ごろの見守り活動や避難訓練などに活用いただければと思っている。

【行政視察報告】

岩手県釜石市 [7月6日(木)]

《防災教育・被災後の子どもの心のケアについて》

釜石市は、平成23年の東日本大震災で被災したが、「津波防災教育マニュアル」を作成し、平成22年度より小・中学校で手引きを使用した取り組みを行っていたことで、震災時に小・中学校管理下にあった児童・生徒については1人の死者も出さずに避難することができた。また、中学校の生徒たちが率先して避難することで、子どもや大人を巻き込んだ避難となり、津波から多くの命を守った。このことを次世代や他の地域に伝えていくこととしている。また、多くの児童・生徒が被災していることから、各校で、日常的、継続的に心のサポートが推進されており、スクールカウンセラーを効果的に活用している。



釜石市での視察の様子

【行政視察報告】

福島県郡山市 [7月7日(金)]

《地域を生かした教育環境パワーアップ事業について》

郡山市は、平成11年度より、国の補助事業を使い、授業における外部の人材活用などを通じた特色ある学校づくりを目指してきた。平成21年度より、学校からの要望を受け、中学校区を単位として地域人材をコーディネートする地域コーディネーターを配置することで、学校及び学校外での教育活動支援を全小・中学校88校で実施している。地域人材を教育活動支援に取り入れることで、郷土を愛し、学ぶ意欲にあふれる子どもたちの育成を行っており、子どもたちの満足感や地域講師がやりがいを感じ、子どもたちが学ぶ楽しさを知ること、地域で子どもたちを育てるといった意識が強まっている。



郡山市での視察の様子